

令和元年度 国有林モニター会議を開催

令和元年12月19日、2年間の任期の締めくくりとなる国有林モニター会議を中部森林管理局（長野市）において開催し、16名のモニターにご参加いただきました。

会議では、冒頭、総務企画部長からこれまでのモニター活動に対する謝辞を述べた上で、担当者から2年間の活動の概要（2回の現地視察、



3回のアンケート調査、森林計画策定にあたっての懇談会参加や意見照会、森林・林業に関する資料の送付等）について報告しました。その後、モニターの皆様一人一人から、活動を通してのご意見やご感想をお話いただき、頂いた内容に対して局職員より回答する形で意見交換を行いました。頂いたご意見、ご感想の概要は以下の通りです。

中部森林管理局では、国有林モニターの皆様から頂いた貴重なご意見等を、これからの国有林野の管理経営に活かしていきたいと考えております。

ご意見、ご感想の概要

- 日本ほど森林に恵まれた国は、世界的にもなかなかない。この素晴らしさを国民の多くが自覚していないと思う。教育や観光とも連携してPRしていくべき。
- 森林管理は、国土の保全、水源の維持、生命の根源に関わる重大な役割。
- 里山や伝統文化を含めて、豊かな森林をしっかり守ってほしい。
- 森林の価値をどのように測っていくのか、森林の価値をどう上げていくのか、もっと考えていく必要がある。
- 全体として第一次産業は先細り傾向にある。林業も根本的にやり方を変えていく必要があると思う。
- 森林経営管理制度や森林環境譲与税について、制度がきちんと実行されるのか、本来の目的に合った税金の使用ができるのか心配。
- 人手不足というが、作業内容によっては高齢者の労働力を活用できるのではないか。
- 林業従事者の作業単価を上げてほしい。仕事に魅力を感じて若い人が入ってきて、収入面の厳しさで辞めていってしまう。
- ニホンジカは「かわいい」といった良いイメージが強いと思う。被害の大きさや対策の必要性、シカ肉の利用促進について、もっと声高にアピールしていく必要がある。
- 長野県ではマツ枯れ被害が収まらない。薬剤散布への反対運動が起きていることなどを踏まえ、薬剤の有効性や健康への影響について、国として総括してほしい。

- 一般への啓蒙を進めるためには、木材として「使う」ことが有効だと思う。家族で楽しむ木育施設等がもっと増えると良い。
- 中部森林管理局の個々の取組は頑張っていると思うが、国や組織全体として見た場合に地味に感じる。国民運動的なものにつながるよう、盛り上げていく必要がある。
- 子どもたちの活動エネルギーは素晴らしい。子どもたちの理解や好奇心を地道に育てていくことが大切だと思うので、予算をきちんと確保し、熱意ある若い職員が率先して取り組んでほしい。また、文部科学省や県・市町村の教育委員会ともっと連携してほしい。
- 南木曾支署のペレットボイラーは素晴らしいと思ったが、稼働には電気が必要なので、停電対策として太陽光発電設備と蓄電池を備えておくべき。
- 国家公務員は異動が多い。異動した後も、それまでの仕事や人とのつながりを持ち続けてほしい。森林、林業、治山等の見識をより深め、他省庁とも渡り合っていてほしい。
- モニター終了後も、現地視察などへ参加できる機会がほしい。他の地域の国有林も見たい。
- モニターになったことをきっかけに、森林管理署や市町村が主催する森林・林業関連のイベントに参加した。
- 森林管理の内容の幅広さを知り、とても勉強になった。
- 中部森林管理局の職員の方々には、いつも丁寧に対応いただき感謝したい。